創　刊
平成元年1月20日
（1989年）

コスモス100号記念号

地域の活動を伝えて
草創期をふりかえる

100号を迎えたコスモス。山あり谷ありの長い道程でした。その草創期の様子を、当時を知る3人の方に記憶の糸を手繰っていただき、それをまとめました。

お集まりいただいたのは、2代目広報部長　中村喜美子さん、ネットワーク創設に関わった元NW推進部会副部長　深谷みどりさん、3代目広報部長　藤井礼子さんです。

コスモスの創刊は平成元年1月ですが、ことの始りは前年の6月、市原市社会福祉協議会辰巳台支部の中に「地域福祉ネットワーク推進部会」が設置されたことにさかのぼります。

部会発足後、辰巳萬緑苑や辰巳青年館（平成11年10月、現在の連合町会集会所に新築）で毎月部会を開き、部員が関わっているそれぞれの活動を分かち合い、辰巳の福祉ニーズを探っていきました。

その結果、ネットワーク（以下、NW）が何をやるのか、地域の皆さんに知ってもらうために広報紙が必要ということになり、NW最初の部会として広報部会が設けられました。

広報紙の名は、市の花である「コスモス」からとられ、題字は部員の一人が間に合わせに書いた素朴な字体です。印刷所も知らなかったので、辰巳萬緑苑に八幡の印刷所を紹介してもらいました。

創刊号は、部長の高橋艶子（母子福祉推進員）さんと岩渕三郎（支所長）さんが主になって編集しました。



バックナンバーをめくる…
左から 中村さん，藤井さん，深谷さん

2号を作ることになり、辰巳台中PTAで新聞作りをしていた中村さんに声がかかりました。中村さんが高橋さんを訪ねると、B4版の割付用紙に向かい、一字一字を表す小さな○の上に直接原稿を書き込んでいたので驚きました。

その後しばらくは、高橋さんと中村さんの二人で編集してましたが、迷うと事務局が置かれていた辰巳萬緑苑に行き深谷さんに相談していました。鈴木洋子萬緑苑長は、NWをいろいろ応援してくれましたが、特に輪転機の購入にはバザー臨時号の印刷などで大助かりでした。

嬉しかったのは、第5号（下の写真）が県の福祉広報コンクールで、県社協会長賞を受賞したことです。B4版4ページで、活発になったNWの活動を紹介するいきいきした記事と1面の福祉バザー&福祉祭開催を知らせる躍動感あふれるイラストが、審査員の目に留まったのでしょう。

このイラストは辰巳台東に在住の井上庸子さんが描いてくれました。

初めの頃は8000部印刷しましたが、かなり余ったので6000部まで減らしました。NWを視察に来る団体が多くなり、それに渡すために増やしたりもしました。

町会を通して配布するために、町会長さんの家に手分けして配達し、町会長さんが変わると、家が分からず困ったこともありました。中には「配れないから持って帰ってくれ」という町会長もいて、協力を得るのが大変でした。

NWの予算が乏しかったので、少しでも足しにしようと広告を取りました。なかなか取れず困っていると梶原町会長が集めてきてくれて助かりました。でも部員がようやく開拓した新しい広告主と掲載をめぐってトラブルがおきたのを機に、13号から広告は止めて、NWの予算だけで刷ることになりました。

この2年位前に、広報部長は高橋さんから中村さんへバトンタッチされました。

印刷所は安くやってくれる所を探しまわりました。裏面の発行体制の推移の表を見ると、その変化が分かります。とことん困った時、中村さんのお嬢さんの勤め先に、無理を言ってお願いしたこともありました。大厩に印刷屋さんがあることがわかり、費用もやや安く、歩いて打ち合わせに行けることもあって、3年ほどお願いしました。

ほどなく、シティライフが少し安いことを知り変更しました。この頃には藤井さんも加わっていて二人で入稿や校正に行きました。対応が丁寧で、専門家の視点からアイデアを提供してくれました。

しかし、一回印刷すると13～14万円かかり、あまり読まれてないから止めてはどうか、との声も聞かれ、悔しく辛い思いをしたこともあります。

（左上に続く）



平成元年1月20日　創刊号

地域ぐるみ福祉
コスモス
心のふれあう住みよい“たつみ”

辰巳の人口と世帯
男　7,579人
女　6,294人
計　13,873人
5,327世帯
63. 12. 1調査

発行
市原市社会福祉協議会辰巳支部
支部長　藤井正一
市原市辰巳台西3丁目14番地
市原市役所辰巳台支所内
☎ 0436―74―2211

～みんなで歩こう明るい辰巳～
社協 辰巳台支部に
福祉ネットワーク部会
スタート！

辰巳福祉祭り、バザー会場　S、63、11、20 於辰巳公民館

ネットワーク部会のささやき
ネットワーク部会長　藤井正一

現在のホームヘルパーの生みの親は民生児童委員協議会のそのふところ刀。意見具申書に実績実例書を添えて、厚生大臣を動かした実績は大きいものがあります。

社会福祉協議会が民間の保育施設を開拓した史実と併せて民間のパワーには目を見張るものがあります。

人生の裏側でひっそりと不幸に泣いている人にも思いやりの手をさし伸べよう。

福祉ネットワーク事業は個々の悩みごとを吸収し明るい楽しい社会「辰巳」づくりを目指しています。在宅福祉、在宅ケアがしきりに呼びかけられている今、ケアグループの奉仕活動を見過ごさないで、みんな友達みんな仲間だの意識を揺り起してグループ活動を保障し援護誘導を図ります。

ネットワーク推進部会は、辰巳台を愛する意欲的、献身的又奉仕性豊かで民主性に富み尚組織的な委員で構成され、責任ある体制で月一回の研究会を開いています。

○地域が何を求めているか地域のニーズを見定めることが必要です。それには、人的資源、物的資源、財的資源「能力の発掘」等地域の社会資源の開発が要求されます。

道は険しいがみんなで距離を感じさせない楽しい辰巳に近づけましょう。

うらの声、声なき声、など地域の生の声に耳を傾け勉強して地域の申し子を慈しみます。

ビジョンを持ち路線を広げ社協がのっかっている社会をまものと改めて敬気持を表します。

過る、市社会福井支部長の体験発

コスモスの発刊を祝う
市原市社会福祉協議会
会長　髙澤誠

県が地域ぐるみ福祉ネットワーク事業を提唱して三年、市社協は市の全域を基本に推進協議会を設け、社協支部を通して実践主体となるべく小地域に、ネットワーク作りに努力を傾注してきました。

幸いにも辰巳台支部がその事業組織として、ネットワーク推進部会を昨年六月（十六日）発足しました。これは藤井支

辰巳

かって市原市町長であり民生児童総務の要職にあった善さんは「この辰巳台を愛する意欲的、献身的又奉仕性豊かで民主性に富み尚組織的な委員で構成され、責任ある体制で月一回の研究会を開いています。

○地域が何を求めているか地域のニーズを見定めることが必要です。それには、人的資源、物的資源、財的資源「能力の発掘」等地域の社会資源の開発が要求されます。

道は険しいがみんなで距離を感じさせない楽しい辰巳に近づけましょう。

うらの声、声なき声、など地域の生の声に耳を傾け勉強して地域の申し子を慈しみます。

ビジョンを持ち路線を広げ社協がのっかっている社会をまものと改めて敬気持を表します。

過る、市社会福井支部長の体験発

創刊号　市内社協支部で初めての新聞発行でした



ンパンマンとイキンマンがやってくる！
0月18日(木) 10時～
辰巳公民館体育室
親子ふれ愛フェスタたつみ
アンパンマン・バイキンマンといっぱいあそぼう！
参加自由・無料・上履き持参

9月30日(日) 10:00～13:30 辰巳公民

辰巳台西小学校児童の合唱 ～ 昨年の「敬老のつどい」



辰巳福祉ネットワーク広報
コスモス
辰巳の人口と世帯
人口 13,215人
男 7,385人
女 5,830人
5,625世帯
平成4年10月1日

辰巳地区 “福祉バザー&福祉祭”
平成4年11月15日(日)　雨天決行
午前10時～午後2時
辰巳公民館 体育室 公民館 支所駐車場
主催　市原市社会福祉協議会
社会福祉協議会辰巳台支部

辰巳地区に福祉センター建設を
地域ぐるみで
平成四年度辰巳地区
福祉バザー&福祉祭開催

県社協会長賞を受けた第５号

使っても、色の映えがなく今一つの感じでした。

それを打ち破ったのが、ネット通販の印刷会社です。安くて早く、きれいに仕上がりますが、データにミスがあっても校正できないので緊張感はあります。

コスモスは現在、辰巳地区唯一の地域広報紙です。広く読まれることを願い、主に町会や地区内の小中学校を通して配布しています。また公共施設等にも置いてもらい、町会未組織の地域にはポランティアによるポスティングもしています。

感　謝

これまで広報部員として編集に携わったり、配布に協力いただいた方をご紹介し、ご尽力に心より御礼申し上げます。

（順不同）

高橋　艶子　中村喜美子
井上　庸子　山本ヒロ子
押元　久子　妙島　節子
藤井　礼子　朝倉としえ
藤田すみ子　深谷　正義
森山ひろみ　菴木　成幸
星野　平　小髙　稔
堀川丑五郎　大川　秀夫
前田　房恵　小林　容子
小髙　和子　濱中　弘光
北脇　義雄　萩野千鶴子
花井　耕　鈴木　純子
杉山　純　永里千恵子
富　千晴　永田　純子
上杉　忠雄　小出　洋子
寺村　守　相馬　信幸
梅澤　輝雄　岡村　弘孝
高橋　美栄　松前三千世
辰己由紀子　吉野　正康
勝　ひろ子　宮内　弘幸
山川　幸恵　田中比佐代
森田世津子　芦田　茂
高橋志津夫　坂本　明美

コスモス掲載写真で見る
ネットワークのレガシー
34年間のコスモスをめくり、今も継承されている活動の出発点をたづねてみました。

社協辰巳台支部の福祉ネットワーク推進部会が広報の次に力を入れたのが、福祉教養講座です。平成2年度には老後の健康対策や生活設計、福祉の動向などをテーマに、4回も開催しています。現在は年1回、地域講座として開かれています。



辰巳地区「福祉教養講座」 5月26日 辰巳公民館

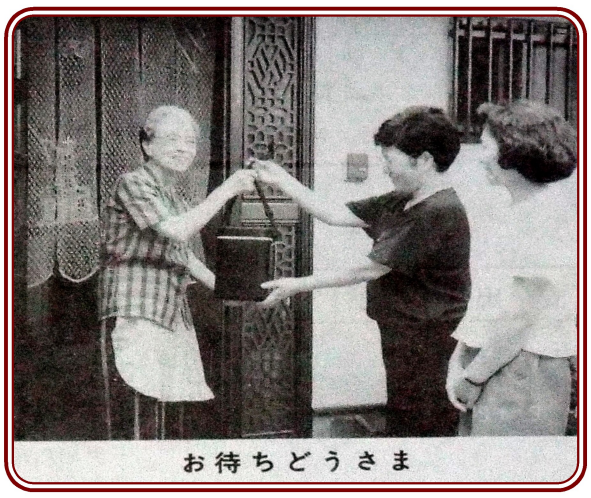
その翌年9月には、給食サービスが始まります。萬緑苑で作ったお弁当を、65歳以上の独居の方や高齢者世帯へボランティアグループ「ひまわり」が宅配しました。その後中断がありましたが、現在は辰巳ねこの手が、辰巳彩風苑の協力を得て継続しています。



「先生の手つきはさすがだねー」
講師の手もとをじっとみつめる

同年10月には男の料理教室が開かれ、料理は女性の専門分野との考えが強い時代なのに、24名もの参加があり、好評に応えて以後年4回となりました。

コロナで中断していますが、いきいき部会が再開を検討中です。


お待ちどうさま

辰巳でも増えてきた高齢者のことを考えようとシルバー部会ができ、新しいタイプの老人クラブを作りました。その初行事が紅葉狩りハイキング。平成8年11月50名が参加して行われ、1万7千歩を踏破。魅力的な活動に会員は急増。平成19年NWから独立。現在は会員数市内最多の辰巳台シニアクラブに成長しました。



配食サービスの利用者から一人で食べるより大勢で食事がしたいとの声が上がり、平成7年会食会が開かれます。

右の写真は、好評に応え開かれた2回目の様子。会食会は平成15年給食部会に引き継がれ、やがて毎月開催となります。コロナでお弁当の配布になっていますが、この6月で通算200回を迎え、会食会再開を願う声がたくさん寄せられています。

平成17年11月辰巳ふれあいセンターが、千葉興銀支店跡を再利用してオープンしました。翌年その一角に子育てサロン〝suku・suku〟が開設されます。それ以前から「子育ての会」は、集会所や公民館などで開いていましたが、ここでは専用の部屋となり、週4回開きました。翌年県の交付金を受け、内装を一新、遊具も整備され、母子の憩いの場として、切れ間なく人が訪れるようになりました。


お腹がいっぱいになったら、簡単なゲームを



平成21年センター移転後、少子化の進行などで、状況は変わりましたが、気が置けない場として利用されるよう、子育て部会が進備しています。

最後に「おしゃべり会」を紹介します。写真がなく残念ですが、コスモス10号によると平成7年「気軽なおしゃべりの懇話会」の名でシルバー部会が開いています。敬老会の感想をコスモスが取材中、聞いた希望に応えたもので、毎月開くこととなり、佐東ヨシ子さんがまとめ役を長年していました。現在もいきいき部会により、連合町会集会所で開かれています。

この他にも、いきいき部会や子育て部会、障がい者支援部会などが育ててきたものがいくつもあります。青少年部会が始め、青少年育成地区民会議に引き継いだものもあります。地域フレッシュ部会の支援活動も定着しています。

NWは地域の課題に今後も積極的に取組んでいきます。

100号に想う

★ 記念すべき100号発行に至ったことは、広報紙に携わった諸先輩方のご苦労のお陰と、厚く感謝申し上げます（富士野）

★ 地域で親しまれる紙面づくりを楽しんでいます。年5回、多くの方のご協力に感謝申し上げます（藤井）

★ カメラマンとして加わり、編集ソフトに挑戦し、ネット印刷を導入するなど、ボケを防ぎながら楽しませてもらった22年です（深谷）

★ 広報部会に入り9年。今は「コロナ下での活動、季節の暦」などを担当しています。必要な情報が地域の皆さんに届き、喜んでもらえるような広報紙を目指していきます（鈴木）

★ 民生委員となった時、地区会長から地域福祉活動に参加するように言われ、コスモス紙の編集に加わることになりました。今やどっぷり漬かっています（杉山）

★ 今ではパソコンで編集、カラー印刷され、見やすい紙面となりました。これからも微力ながら、紙面づくりのお手伝いをしていきます（富）

★ 部会に参加して地域の様々な情報に接し、見聞を広めることが出来ました（上杉）

★ 3年前、地域の事を何も知らずにお手伝いを始めました。紙面作りを通じて地域のことを理解しつつあります。皆様にお役に立てていれば幸いです（岡村）

コスモス発行体制の推移

号数	発刊日	発行数	印刷所
創刊号	H 1.1.20	B4版2Pﾓﾉｸﾛ, 8000部	入間印刷（八幡）
3号	H 2.7.1	B4版 4P ﾓﾉｸﾛ	↓
4号	H 4.2.1	B4版 4P 2色刷	岡田印刷（若葉区）
			
6号	H 5.6.9	年２回発行	↓
12号	H 8.7.1	予算なく部員家族の伝手を頼り印刷	
			
13号	H 8.12.17		大世社（大厩）
			
18号	H 11.7.15		シティライフ（西広）
			
22号	H 13.7.12	年3回発行	↓
28号	H 15.7.1	6500	↓
32号	H 16.11.1	以後3年, バザー号は手作り, B4, 2P, ﾓﾉｸﾛ	
36号	H 18.2.2	学校等へ配布, 公民館/支所等に設置始め, 6000	
42号	H 20.3.1	7000	シティライフ（西広）
55号	H 24.7.1	年4回発行	シティライフ
56号	H 24.9.1	編集ソフトで作成, 市社協で印刷 A3版2P, フルカラー化、5000部	
			
66号	H 27.3.1	5000	東京カラー印刷
			
71号	H 27.6.20	6000	↓
			
75号	H 29.6.20	年5回発行（こども特集号を追加）	
90号	R 2.6.20	7000	↓

コスモスに見る辰巳台の人口の変化

住所が辰巳台西と辰巳台東にある方の人口です

	調査年月日	全体（人）	男（人）	女（人）	14歳未満	65歳以上	世帯数
創刊号	S 63.12.1	13,873	7,579	6,294	＊4,349	＊252	5,327
6号	H 5.5.1	13,285	7,484	5,801	-	-	5,820
16号	H 10.6.1	12,555	6,985	5,575	-	-	5,367
28号	H 15.6.1	12,648	6,796	5,852	2,562	914	5,091
43号	H 20.6.1	12,614	6,663	5,951	2,568	1,308	5,079
59号	H 25.5.1	12,129	6,375	5,754	2,097	1,745	5,054
80号	H 30.6.1	11,758	6,186	5,572	1,664	2,197	5,141
100号	R 4.5.1	11,153	5,769	5,384	1,308	2,522	5,140
創刊号と100号との差	増減数	-2,720	-1,810	-910	＊-3,041	＊2,270	-187
	増減率	-19.6%	-23.9%	-14.5%	＊-69.9%	＊900.8%	-3.5%

この約34年の間に、人口は20%も減少したが、世帯数はわずかな減少にとどまるのは、何を意味しているのだろうか。男性の減少数が女性のそれの２倍近いのはなぜだろうか。
＊は参考として S60.10.1 国勢調査を載せた。差はそれと100号の差である。